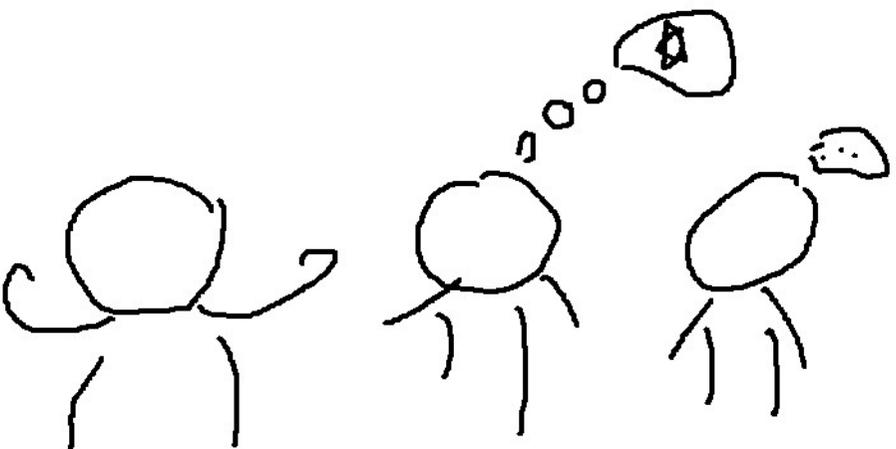


さん
に
ん
の
お
じ
さん



作者 : Haosheng Zhang

張浩声

Level : 3

Class name : "JAPN3302 advanced Japanese Spring 2021"



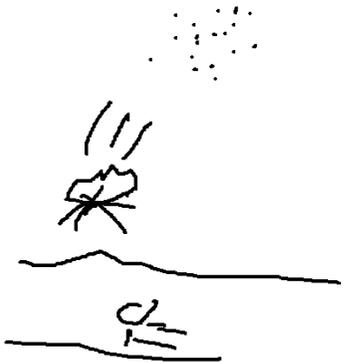
昔々、三人のおじさんは町で会いました。一人は強い人で、一人は頭がいい人で、一人は速い人でした。強いおじさんは広場で町中に聞こえる大きな声で言いました。「俺は遠くの場所に行つて国を征服したいです。」頭がいいおじさんは町のパブで一緒に遠い所に行ける人を探しました。速いおじさんは広場を速く走つて、二人のおじさんを見ました。

「私^{わたし}たちと遠^とい所^{ところ}に行^いこう」と強^{つよ}いおじさんは熱^{ねつ}心^{しん}に速^{はや}いおじさんに話^{はな}しました。「遠^とい所^{ところ}に行^いけば、宝^{たから}物^{もの}がもらえるかもしれな

い」と頭^{あたま}がいいおじさんは冷^{れい}静^{せい}に速^{はや}いおじさんに話^{はな}しました。速^{はや}いおじさんは何^{なに}も分^わからないので、ただうなずきました。三^{さん}人^{にん}のおじ

さんは遠^とい遠^といところを見^みたくて、一^{いっ}緒^{しょ}に旅^{りょ}行^{こう}に行^いきました。

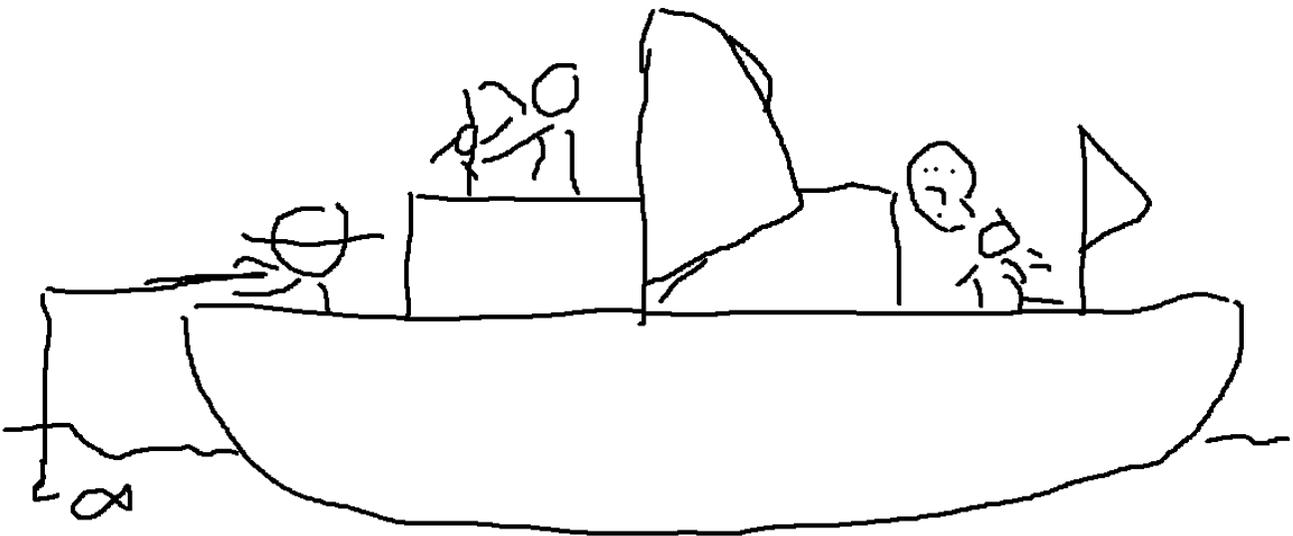
ある日、三人のおじさんは森にきて、休んでいたとき、たくさんののはちに会いました。はちはとても危険で、三人のおじさんに追いつきました。強いおじさんははちを恐れなくて、大きい石で彼にちかずいてくるはちを全部殺しました。頭がいいおじさんは森のこをよく知っていて、のんびり火をたいて、川でまきました。そして、速いおじさんはなにもわからずただ走って、速いから、はちは彼に追いつきませんでした。この後で三人のおじさんはもう一度旅行に出ました。



ある日、三人のおじさんは海で泳ぎました。その時、鯨たちが
出て、三人のおじさんに追いつきました。強いおじさんは鯨を見て
興奮して、鯨と戦って、鯨を殺しました。頭がいいおじさんは鯨の
習慣を知って、血がある所を遠ざけました。速いおじさんは何もし
ないで泳ぎました。速すぎるから、鯨が追いつきませんでした。

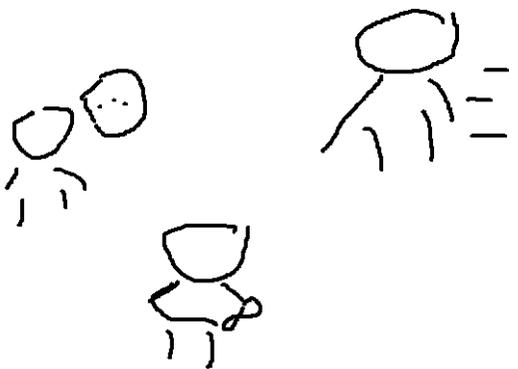
三人は無事に旅に出ました。

三人のおじさんはボートを作^{つく}って、ボートで遠^とい遠^とい対岸^{たいがん}に行^いきました。毎日^{まいにち}、強^{つよ}いおじさんは魚^{さかな}をつかまえて、三人^{さんにん}のご飯^{はん}をつくりました。毎日^{まいにち}、頭^{あたま}がいいおじさんは海^{うみ}と空^{そら}と星^{ほし}を観^{かん}察^{さつ}して、遠^とい遠^とい対岸^{たいがん}にナビゲーション^{ナビゲーション}しました。毎日^{まいにち}速^{はや}いおじさんは何^{なに}もわからなくて、ボートで走^{はし}って、走^{はし}って、走^{はし}りました。



その日、頭がいいおじさんは普通の海と違う海を見ました。彼はもうすぐ嵐がくるのを知っていました。だから、彼は小さい浮輪を作りました。強いおじさんは海の異常を感じました。だから、彼は海と戦おうとしました。速いおじさんは何もわからなくて、ただボートで走りました。そして、嵐がきました。大きい波がきて、ボートは転覆しました。強いおじさんは怒っている海と戦い、頭がいいおじさんは小さい浮輪を手放しませんでした。速いおじさんは何もわからなかったのです。

幸運なことに、速いおじさんはどうするかわからないまま生きてきました。彼が目覚めた時、もう海辺にいました。ここは新大陸です。彼は新大陸にいました。速いおじさんは新大陸でなにもしないで速く走りました。速いおじさんは新大陸でなにもしないで速く食べました。速いおじさんは新大陸でなにもしないで速く人と話しました。



三十年後、速いおじさんははまだ速い。彼はいつものように速く走っていた日、三人のおじさんは再会しました。強いおじさんはもうこの大陸を征服して、この国の大将になりました。頭がいいおじさんは誰よりもいろいろなことを知っている大賢者になりました。速いおじさんはなにもなくて、ほかの二人を見て、もう一度速く走りました。これが三人のおじさんの話です。

